

## << 小学校適正配置に関する PTA 保護者アンケート >>

日頃より PTA 活動へのご理解、ご協力を頂きありがとうございます。

現在今治市では玉川町内の二つの小学校の今後の在り方（統合）について検討を進めています。

保護者の皆様のご意見を参考とするため以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

九和小学校 PTA 会長 畑修一

鴨部小学校 PTA 会長 小山田成実

■ 1 ■ お子様の学年（○をつけてください）（複数児童がいらっしゃる場合は該当する学年全てに○をお願いします）

6 年      5 年      4 年      3 年      2 年      1 年      年長      年中      年少      年少未満

## ■ 2 ■ 小学校統合についての基本的なお考え

- 1, 賛成
- 2, どちらかといえば賛成
- 3, どちらかといえば反対
- 4, 反対
- 5, わからない

■ 3 ■ 統合する場合、どの校舎を使用するのが良いと思いますか？

- 1, 九和小学校の校舎
- 2, 玉川中学校の校舎
- 3, どちらでもよい
- 4, わからない
- 5, その他 ( )

※今治市の小学校統合に関する見解として、新しい校舎の建設は不可とのこと。また、鴨部小学校は教室数が統合後の必要数に満たないため候補にあげていません。

**■ 4 ■ 玉川中学校との「小中一貫校（小中一体型校）」についてどう思いますか？**

---

- 1, 積極的に進めてほしい
- 2, どちらかといえば進めてほしい
- 3, どちらかといえば反対
- 4, 反対
- 5, わからない

※「小中一貫校（小中一体型校）」に関しては、添付の Q&A にわかりやすい資料を掲載していますのでご参考になさってください。

**■ 5 ■ 小中一貫校にする場合、心配な点や疑問点、逆に期待する点があれば記入してください**

---

（自由記述）





保護者アンケートに付随する Q&A （修正後）

No.	Q	A
1	<p>統合せずに各小学校単独での継続は不可能なのか（少人数だったとしても）</p>	<p>今回（第2次基本方針）の統合検討対象校（玉川・菊間・大島・大三島）では、「複式学級の解消」が主たる統合理由です。</p> <p>少人数教育のメリットを生かしつつ、多様な考えに触れる機会や切磋琢磨する機会の創出が必要であるため、統合により児童数を確保しようとするものです。</p> <p>2学年の教科書・進度・板書等を同時に管理する複式指導は、授業準備・授業運営の負担が非常に大きいため、教員負担の軽減の観点から、複式学級を解消する必要があると考えています。</p> <p>※複式学級は45分授業が2学年で分割されるため、授業時間の半分が自学自習となります。この状況を解消しようと考えています。</p>
2	<p>廃校となる学校跡地の利用はどうなるのか。</p>	<p>統合場所が決定後、校舎部分も含めた将来的な跡地利用につきましては、地域の要望や市の各種計画を勘案しつつ、市長部局と連携を図りながら協議を進めてまいります。</p>
3	<p>PTAの意見はどれくらい優先されるのか（これから入学する未就学児童世帯の意見はどうなるのか）</p>	<p>現在、域内の保育所代表・小学校PTA・中学校PTAの方々に玉川地区学校適正配置地元代表協議会（以下、「地元代表協議会」という）に参加いただいています。</p> <p>（会での承認を受けた上で）今後、団体ごとにオブザーバー参加（直接の発言は出来ない参加）するなど、団体内の意見調整に工夫いただくことは問題ありません。しかし、大人数の参加は会議運営上困難であるため、団体内で調整いただく必要はあります。</p> <p>ここでの議論に、それぞれの意見は反映されると考えています。</p> <p>なお、地元代表協議会の傍聴は、席に限りはありますが、現在も可能です（先着順）。</p>
4	<p>他の地域行政組織、支所や保育園、消防団なども統合されていくのか</p>	<p>地域の人口動態など今後の推移に応じて、検討していきます。</p>

No.	Q	A
5	小中一貫校とした場合、どのようにその内容、スタイルを決めていくのか	地元代表協議会での地域の皆様からのご意見を参考に、教育委員会として実現可能性があり、かつ、小中一貫校としての効果が見込める運営内容等を決定することになります。
6	統廃合が予定より前倒し、先送りされることはあるか。	望ましい教育環境を出来るだけ早期に実現するため合意形成に至る議論の進捗によっては、令和10年度に前倒しになる可能性はあります。 また、教育委員会としても早期実現できるよう努力してまいります。
7	児童クラブはどうなるのか	児童クラブの所管はネウボラ推進課です。 1校区1児童クラブの原則を踏まえて、教育委員会と市長部局（ネウボラ推進課）と連携して、児童・保護者の皆様にとって望ましい姿になるよう進めてまいります。
8	校区の再編は検討項目にないとのことだが、現状、理由があれば校区外への通学は可能なのか。	理由によっては（児童生徒等の具体的な事情に即して、学校教育課が相当と認めるときは）可能です。 児童・保護者の意向による申請に対し、今治市では、身体的な理由、いじめの対応のほか、児童生徒等の具体的な事情に即して相当と認めるときは、保護者の意向に十分配慮し、通学区域制度の弾力的運用を行い、校区外通学の許可をしております。 校区外通学は、保護者が通学に責任を持つことが求められたり、自治会行事など「校区」とひもづいた行事に参加しにくくなるなど、保護者負担の増加や地域との連動した活動に支障をきたすことが想定されるため、特別な理由がない限り、認めていません。

## 小中一貫校（校舎一体型）についてのQ&A

### ●はじめに

今治市教育委員会は、小規模小学校同士の統合にあたって、将来的な小中一貫校を見据えながら、小中連携教育を強化してまいりたいと考えています。

小中連携教育とは、小学校から中学校までを円滑につなげる（連携する）ことで中1ギャップの解消などを目指す取り組みです。

ここからは、保護者や地域の皆さんとともに小中連携教育を進めるために、どんな小中連携の形を望むかの判断材料にさせていただくため、小中連携教育について解説します。

### ●学校の仕組み・制度の違い

☆知っておきたいポイント

Q1. 小学校と中学校の校舎を同じにすると「小中一貫校」になるのではないのですか？

A1. 「小学校と中学校が同じ校舎にあること <sup>イコール</sup> = 小中一貫校」とは限りません。

小学校と中学校が連携する教育には種類があり、学校の形によって次のように分類されています。

#### ☆小中連携教育の種類

##### ① 小中連携校

組織：小学校と中学校  
小学校・中学校の教員が互いに情報交換や交流を行うことで、小・中の円滑な接続を目指す形です。  
例）松山市立日浦小中学校  
今治市立岡村小学校  
関前中学校

施設一体型・施設隣接型・  
施設分離型

さらに制度化  
（小中の一体  
感をアップ）

#### 小中一貫教育

##### ② 小中一貫校 （小中一貫型小・中学校）

組織：小学校と中学校  
小中一貫型小・中学校：組織上は小学校と中学校が独立しており、それぞれの校長を持つ形でありながら、小中で一貫した教育を施す形です。  
例）呉中央学園  
（呉市立呉中央小学校・呉中央中学校）

施設一体型・施設隣接型・  
施設分離型

##### ③ 義務教育学校

9年間の教育課程

1人の校長、1つの教職員組織で、1～9年生として運営する1つの学校です。

例）愛媛県立今治東中等教育学校  
（中学校・高校の連携例ですが、似た形です）

Q2. 小学校と中学校の校舎が別々でも、小中一貫校や小中連携校は可能なのですか？

A2. 施設一体型の学校より小中連携のメリットを感じることは少なくなるかもしれませんが、施設分離型の小中連携校や小中一貫校という事例は多数あります。

求める教育や地域の実情、通学の事情などに応じて、学校の形を選んでいく必要があります。

#### 参考動画①)

長野県須坂市 | youtube

「新しい学び（須坂モデル）を実現するための学校1  
～小中連携と小中一貫教育のよさ」



#### 参考動画②)

京都教育大学公式 YouTube kyokyochannel

| youtube

特別講義「小中の9年間をつなぐ」  
Section1～小中連携と小中一貫～



もし「九和小学校」の施設に小学校を統合したら・・・

1.「施設分離型」小中連携校 または 2.「施設分離型」小中一貫校 という形が考えられます。

もし「玉川中学校」の施設に小学校を統合したら・・・

1.「施設一体型」小中連携校 または 2.「施設一体型」小中一貫校 という形が考えられます。

## ●小中連携校と小中一貫校のちがい

### Q3. 小中連携校と小中一貫校はどう違うのですか？

A3. 一番の違いは次の2点です。

- ① 学校組織として一体かどうか
- ② 9年間の教育課程（カリキュラム）をどこまで一本化しているか

一般に「小中連携校」と呼ぶ場合は、制度化された「小中一貫校」ほどではなく、交流や行事などに重点を置いた連携を指すことが多いです。

- ・ **小中連携校**：小学校と中学校が組織運営上は分かれています。授業交流や行事、教員同士の打合せなどを通して、小中のつながりを強める取組みを行います。
- ・ **小中一貫校**：小学校と中学校が一体となった運営をし、目指す子ども像や教育目標を共通にし、9年間を通した教育課程を組んで一貫して指導します。

### Q4. 子どもにとって「中1ギャップ（学習や人間関係の急な変化）」への効果は違いますか。

A4. どちらも「中1ギャップ」を減らすことを目指した取組みです。

一般的に、小中一貫校の方が、9年間を見通したカリキュラムや指導体制を取りやすいと言われています。

小学校の段階から中学校の先生とも情報共有しながら支援を続けられるため、苦手教科や生活面での課題を中学校以降も継続してフォローしやすいと言われています。

小中連携校でも、行事や授業交流、児童生徒の情報交換や引継ぎを通じて、中学校生活への不安を和らげる効果が期待されています。

例）小中一貫校では、教育課程を「小1～小4」「小5～中1」「中2～中3」のように学校区分にとられず、9年間を見通した形で組むことができます。

小中連携校では、基本的には「小1～小6」「中1～中3」と学校ごとに教育課程を組みますが、学習内容の重なりを減らす工夫や、同じ単元を小中でつなげて指導するなどの取組が行われます。

### Q5. 学校行事や部活動はどうなりますか。

A5. どちらの場合も、運動会や音楽会、地域行事、部活動体験などを小中で合同実施したり、互いに参加したりする取組が行われます。

小中一貫校では、9年間を通して位置付けた行事予定を立てやすく、例えば1～9年生が関わる「縦の交流行事」のようなものを組みやすいのが特徴です。

## ●メリット・デメリットについて

### Q6. 小中一貫校のメリットは何ですか。

A6. 一般に次のような点がメリットとして挙げられています。

- ・中1ギャップの軽減（環境変化が小さい、顔なじみの先生・友達と進学できる）
- ・9年間を通した系統的な学習指導ができ、学力や学習習慣の定着が図りやすい。
- ・小中の教員が互いの専門性を学び合い、指導の工夫や支援の継続がしやすい。

### Q7. 小中連携校のメリットは何ですか。

A7. 小中連携校は、学校の制度を一体化せずに、小中のつながりを強められる点が特徴です。

- ・地理的な問題など、小学校と中学校の組織の一体化が難しい場合でも、学校間の連携を通じて「施設分離型の小中一貫教育」に近い効果を狙うことが出来ます。
- ・まず行事や授業交流、情報共有など身近なところから着実に連携を深め、地域の実情に合わせて段階的に進めやすい側面があります。

小中一貫校は、小中連携校をレベルアップ（制度化）した呼び名です。小中連携校として連携をすすめながら、地域の実情に応じたあり方を模索することもできます。

### Q8. それぞれのデメリットや心配点がありますか。

A8. 小中一貫校の場合、学校運営の体制変化など、環境の大きな変化が生じることがあり、地域や保護者の理解・合意形成が重要になります。

小中連携校の場合、小学校と中学校があくまで別組織のため、「一体化したカリキュラム」や「人・物・時間の集約」といった面では、小中一貫校ほど踏み込めないことがあります。

学校運営においても、小学校と中学校それぞれの事務の他、小中連携のための事務が負担になることがあります。

## ●進路・入学手続きなど

### Q9. 高校受験には何か影響はありますか。

A9. 小中一貫校・小中連携校いずれの場合も、学習指導要領に基づいて必要な内容を学びますので、制度として特別な有利・不利が生じるものではありません。

ただし、9年間を通して学習習慣や基礎学力の定着を図ることで、「中学校段階での学びの質」を高め、結果として高校進学に向けた力を育てることが期待されています。

## ●保護者として知っておいていただきたいこと

### Q10. 保護者として、一番知っておいた方がよいポイントは何ですか。

A10. 名称の違い以上に大切なのは、「お子さんの9年間でどのような考え方で育てようとしているのか」「そのために小・中がどんな連携や一貫した取組を行うのか」という点です。

小中一貫校、または小中連携校でやりたいことをイメージすることが大切です。

今治市としては、保護者の皆様のご意見を参考に、地域の実情や通学環境を踏まえながら、実現可能な形を模索し、小中一貫校・小中連携校いずれの場合でも、「子どもにとっての学びやすさ・安心感」を最優先に考えて取り組んでいきます。